第１０課　福音を生きる

【暗唱聖句】

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」エペソ2：8～10

【日曜日・神は…世を愛された】

**「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」ヨハネ3：16**

神様が愛された「世」はギリシャ語で「コスモス」と言い、「創造され、組織立った存在としての世界」を意味しています。つまり、神様は人類のみならず神様が創造された被造物すべてを愛されたということです。考えてみれば、神様が創造されたこの世界は、すべて人類の幸せを考えて創造されたのです。だから、この世界と人類とは深いつながりがあり、その中には神様の人類に対する思いが込められているのです。神様がこの世を愛されたのは、私たち一人一人を愛しているからなのです。そして、人類の救済計画は人類のみならず、すべての被造物にも及ぶのだという驚くべき真理が語られています。

**「つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます」ローマ8：20～23**

自然界もいま私たちと共にうめき、苦しみを味わっているというのは、不思議なことではありません。本来の姿はもっと栄光に輝いていたのでしょう。しかし、やがて滅びへの隷属から解放され自由にされる日が来ます。神様の救いの御業は、この世界全体にも及ぶ壮大なものなのです。そのことと合わせて、**「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」（ヨハネ3：17）**ことを忘れてはなりません。

【月曜日・同情と悔い改め】

**「また群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」マタイ9： 36**

**「エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない」ルカ19：41，42**

イエス様は群衆たちが弱り果て打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。また平和の道を知らないことに涙さえ流されました。この世界は罪によって汚れ、数多くの困難や、理解できないような出来事が、わたしたちを苦しめます。そのことに対して、イエス様はわたしたちに同情できない方でありません。この世で生きることがいかに大変なことなのかを、ご自身が身を持って体験してくださいました。だから、わたしたちに同情し、深く憐れむことができるのです。しかし、だからといって罪の世界でおぼれても仕方がないと、諦めておられるわけではありません。わたしたちは絶えず祈り、悔い改め、この世に勝利しなければなりません。その勝利の秘訣がイエス様の中にあるのです。だから、わたしたちは主のもとに駆け込まなければならないのです。

【火曜日・恵みと善行】

**「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」エフェソ2：8～10**

わたしたちが救われるのは、ただ主の恵みによります。それは誰も誇ることがないためだと書かれてあります。自分を誇れば罪の罠にかかります。わたしたちは常に主をたたえ、感謝するのです。このことをいつも忘れないようにしましょう。しかし、では何もしなくて良いのかというと、聖書は「善い業を行って歩むのです」と言います。これはどういうことでしょうか。少なくとも、求められている善行は、救われるためではないということがわかります。何のために善行を行うのかと問うこと自体が、罪の結果なのです。人間は善い業のために造られたので、善い業に生きることは自然なことなのです。善い業をしているという自覚さえないかもしれません。しかし、神様との正しい関係が築かれていないと、自分の業を誇りたくなったり、評価されないと気分を害したりします。自分の罪深さと無力さを徹底的に知ることです。そのとき初めて神様の深い恵みがわかるようになるでしょう。

【水曜日・私たちに共通する人間性】

**「そこではもはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」ガラテヤの信徒への手紙3： 28**

イエス様はどんな人でも偏見を持つことなく受け入れられました。同じことがわたしたちにも求められています。神様から見れば、誰もが等しい存在なのです。この世界に身分の違いや能力の差による偏見や差別があるのは、この世界が罪の世界だからに他なりません。神様の世界にも役割の違いはありますが、一人ひとりが与えられた働きを神様の栄光のために行っています。そこには偏見や差別、嫉妬などは存在しないのです。この世界はイエス様に対して嫉妬心をもやし、罪に落ちた悪魔の性質が反映されています。だからこそ、そのような偏見や差別なく、どんな人でも受け入れるものであることが求められているのです。教会には、様々な人が集まってきますが、主にあって一つとなるときに、家族のように結ばれて、この世とは別世界の神の国を築き上げていくことができるのです。

【木曜日・永遠の福音】

**「わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」黙示録14：6，7**

三天使の使命の中で第一天使の使命は、単純なメッセージでありながらも厳粛であり、礼拝について考えさせられるものです。

「裁き」…裁きというと怖いイメージを持つかもしれません。しかし、神様の裁きがなければ罪の世に終止符を打つことができません。虐げられてきた人たちや罪の世界を悲しんできた人たちが、神様の正しい裁きによって解放され救われるのです。

「礼拝」…礼拝は神様と私との2人だけの関係をより深めていくために欠かせないものです。と同時に、弱者に対して優しい手を差し伸べていくことも含まれています。これがイエス様との関係と結びついているからです。

「創造」…私たちが礼拝をささげている方は、創造主であることを強く意識することが大切です。そして、わたしたちはみな神様から創造された者であるという自覚が、一つの霊的家族であるという思いを強めてくれます。